

# 日本版「自傷・自殺未遂レジストリ」 構築と救命救急センターでの実施に向けた展望

○小林 諭史<sup>1) 3) 6)</sup> 隅 浩紀<sup>1) 3)</sup> 秋枝 一基<sup>2)</sup> 山下 智幸<sup>4)</sup> 三宅 康史<sup>5)</sup>

1)   
厚生労働大臣指定調査研究等法人・一般社団法人  
**いのち支える自殺対策推進センター**  
Japan Suicide Countermeasures Promotion Center

- 2) SUBARU健康保険組合太田記念病院 救急科
- 3) 帝京大学大学院 公衆衛生学研究科
- 4) 日本赤十字社医療センター 救急科
- 5) 帝京大学医学部 救急医学講座
- 6) 前橋赤十字病院 救急科・集中治療科

# 日本臨床救急医学会 COI 開示

筆頭発表者名： 小林 諭史

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある  
企業などはありません。



いのち支える

厚生労働大臣指定調査研究等法人・一般社団法人

# いのち支える自殺対策推進センター

Japan Suicide Countermeasures Promotion Center

根拠法：自殺対策の総合的かつ効果的な実施に資するための調査研究及びその成果の活用等の推進に関する法律の第4条第1項

法人設立 令和元年11月27日  
代表者 代表理事 清水 康之

## 生き心地のよい社会を創る。

いのち支える自殺対策推進センターは、  
一人ひとりが自分自身であることに意味を感じながら人生を全うできる、  
そんな、誰も自殺に追い込まれることのない「生き心地のよい社会」を創るため、  
様々な活動を行っています。

# 自傷・自殺未遂レジストリ 組織図

厚生労働省

日本臨床救急医学会

自殺企図者のケアに  
関する検討委員会

救命センターにおける  
自殺未遂者レジストリ構築WG  
委員長 山下智幸



厚生労働大臣指定調査研究等法人・一般社団法人

いのち支える自殺対策推進センター

Japan Suicide Countermeasures Promotion Center

自傷・自殺未遂レジストリ  
事務局

研究グループ コアメンバー

帝京大学

医学部救急医学講座

大学院公衆衛生学研究科

いのち支える自殺対策推進センター

SUBARU健康保険組合太田記念病院

三宅康史

福田吉治、隅浩紀

清水康之、大内衆衛、小林諭史

秋枝一基

# 自傷・自殺未遂と自殺死亡との関連

1件の自殺（既遂）に対して、20件以上の自殺未遂が発生していた可能性がある

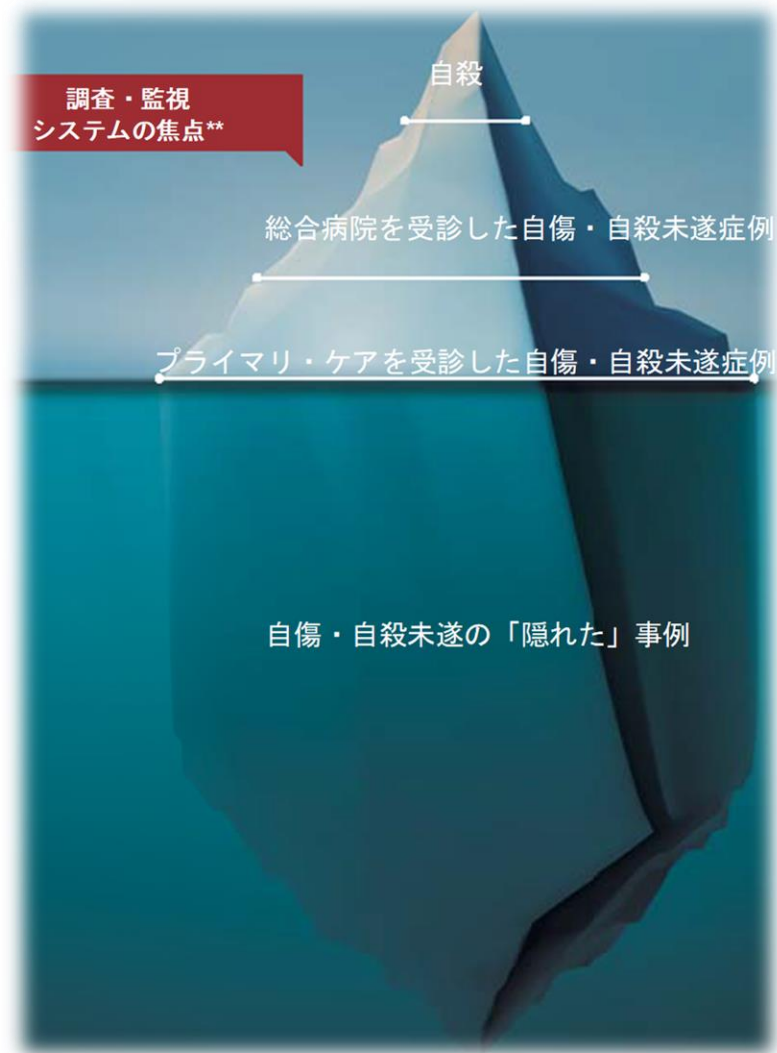
World Health Organization; 2014. Preventing suicide: a global imperative.

→自殺者数21,007人（令和3年）に対して、

**約40万人**の自殺未遂者が存在していた可能性

自傷・自殺未遂の経験は将来的な自殺死亡に対して、重要な単一の予測因子である

Owens D, et al. Fatal and non-fatal repetition of self-harm. Systematic review. Br J Psychiatry J Ment Sci. 2002;181:193-9.



World Health Organization. (2016). Practice manual for establishing and maintaining surveillance systems for suicide attempts and self-harm. World Health Organization.

# WHOは各国にレジストリ構築を呼びかけている



World Health Organization



iris.  
Institutional Repository  
for Information Sharing

English ▾

## Practice manual for establishing and maintaining surveillance systems for suicide attempts and self-harm



Practice manual for establishing and maintaining surveillance systems for suicide attempts and self-harm

**Citation**  
World Health Organization. (2016). Practice manual for establishing and maintaining surveillance systems for suicide attempts and self-harm. World Health Organization. <https://apps.who.int/iris/handle/10665/208895>

**Description**  
79 p.  
The Chinese version is published by Beijing Huilongguan Hospital, China

**ISBN**  
9789241549578

**Language**  
English  
中文

**More languages**  
[Kazakh](#)  
[русский](#)

**Collections**  
[Publications](#)

**Metadata**  
[Show full item record](#)

**/iew/Open**  
[9789241549578\\_eng.pdf \(637.2Kb\)](#)  
[9789241549578-chi.pdf \(1.520Mb\)](#)

**/iew Statistics**

**Altmetrics**  


# なぜレジストリが必要なのか

自殺に至る最も強力な予測因子は過去の自殺企図歴である

World Health Organization; 2014. Preventing suicide: a global imperative.

## 自殺総合対策大綱（平成29年7月25日閣議決定）

自殺未遂者の実態について調査研究を進める

自殺未遂者の再度の自殺企図を防ぐための対策を強化する

出典：厚生労働省HP; [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/seikatsuhogo/jisatsu/taikou\\_h290725.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/jisatsu/taikou_h290725.html)（2022年5月25日）

**本邦においては自傷・自殺未遂者の数さえ、  
正確に把握する仕組みはない**

# 日本における自傷・自殺未遂者統計に関する報告

各種疫学研究だけでなく、官公庁・自治体等による調査も多数行われてきた

これまでの報告

- 後方視的調査
- 単一またはいくつかの病院群における調査
- 横断的であっても短期間の調査にとどまる

**日本では、自殺未遂者に関する全国的・継続的な調査の仕組みは確立されていない**



# 海外における自殺未遂レジストリ



## 2013年、自殺対策に関する国際自殺予防学会- WHO合同の世界的調査

(157カ国のうち90カ国から回答 (57%) )

## いずれかの種類の自傷・自殺未遂に関する レジストリがあるかどうか

- ・ あると回答した国は18% (89カ国中16カ国)
- ・ 大半が米州地域とヨーロッパ地域

# なぜ救命救急センターで調査するのか

自傷・自殺未遂者が集約される可能性が高い場所

重症である⇨自殺死亡リスクが高い

本人、家族等への詳細な聞き取りが行われる

消防・警察からの情報、現場の調査結果が集約される

全国289箇所あり、地域ごとの特性を反映している

# 日本版「自傷・自殺未遂レジストリ」

目的：

自傷・自殺未遂に関する状況と性質を把握

自殺対策（政策立案や予防介入）に活用する。

研究デザイン：**記述疫学**

対象：

本研究に登録した救命救急センターを受診した  
**すべての自傷・自殺未遂患者**

# 主要な調査項目

WHOの示す項目例、自殺統計原票を参考に、救急医学、精神医学、心理学の専門家とともに起案

**施設情報** 救急科診療体制、精神科との連携体制、年間搬送数など

**基本情報** 受診日時、年齢・性別、国籍など

**医療情報** 自傷とする根拠、来院手段、バイタルサイン、薬物定性検査、希死念慮の有無およびその確認者、診断、転帰、精神科コンサルテーションの有無、退院時のつなぎ・情報提供先、妊産褥婦の該当、既往歴、精神科受診歴など

**社会経済状況** 生活環境、同居人の有無、配偶者等の有無・関係性、職業、生活保護・障害者手帳の有無など

# レジストリによって明らかになること

自傷・自殺未遂者のタイムリーな**発生状況**（地域、曜日や日時）

個人特性の違いによる**発生率**（性別、年齢、既往歴、社会経済状況、重症度など）

- 社会経済状況：職業、雇用状態、家族や同居者の状況・関係性、障害の有無、生活保護利用の有無

自傷・自殺未遂者の**特性**（手段、職業、同居者の有無など）

**妊産褥婦**の自殺未遂状況

令和4年度「自傷・自殺未遂レジストリ」研究実施計画書より

# レジストリデータを活用した展望

## 実効的な自殺対策のための**エビデンスを構築**

- 特定の物品の**販売・処方制限**、**立ち入り規制**など
- 脆弱な**集団への介入・援助の必要性の根拠**

## 再度の自殺未遂を防ぐための**介入法を開発**

- 搬送を減らし医療スタッフの負担を軽減する
- 再企図防止のための**治療プログラム開発**

## 医療者への**啓発**

- 身体的な治療だけでなく、精神科医療や各種支援機関へのつなぎまでを一貫して行うことをレジストリ事業を通して要請する

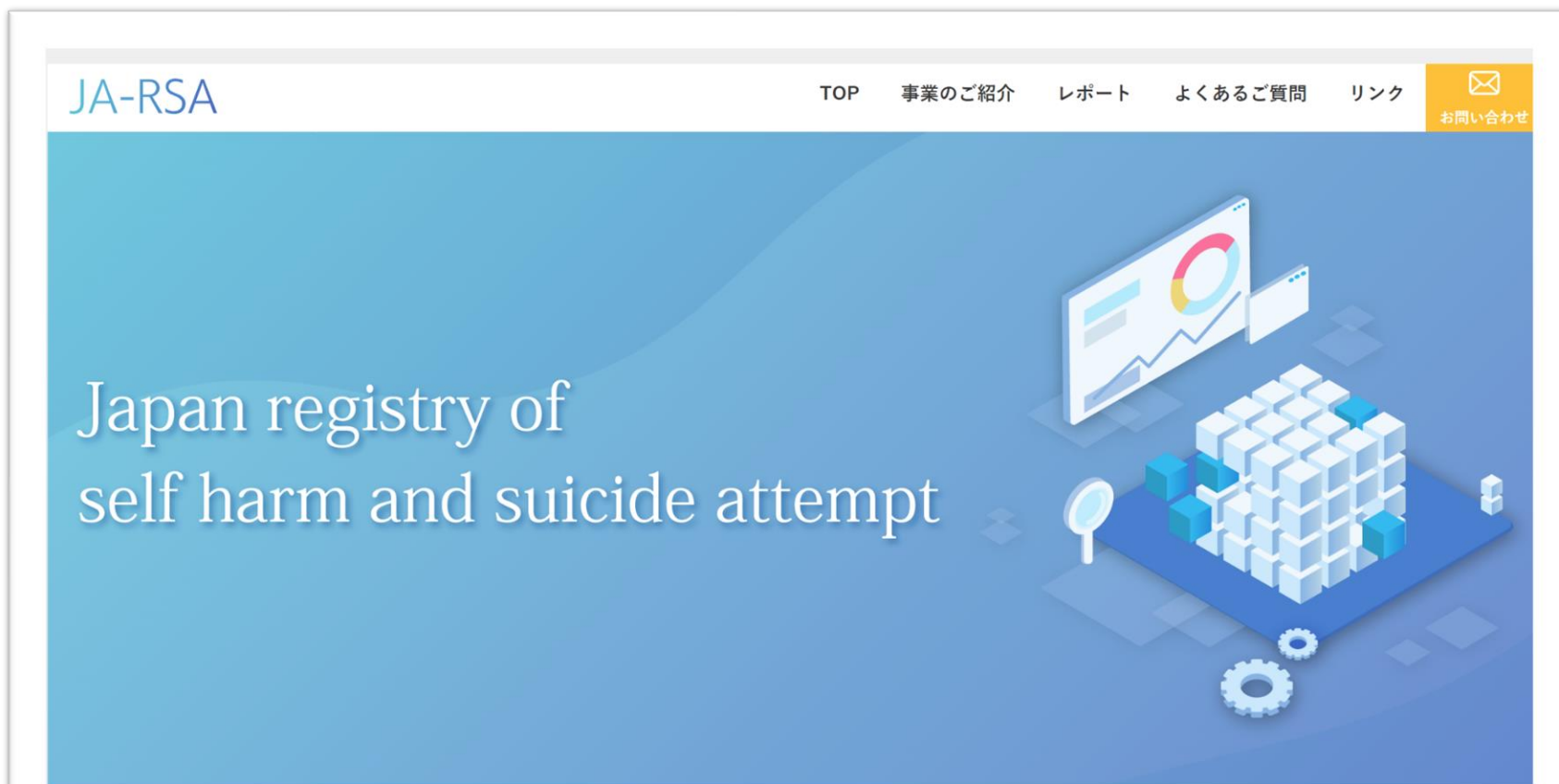
# 現在の進捗

- レジストリシステム構築完了
- 10箇所の救命救急センターにおけるパイロットスタディが完了
- ポータルWebサイト完成
- 全国のすべての救命救急センターに参加案内を送付
  - 臨床救急医学会、厚生労働省、JSCPが連名で依頼
- 中央一括倫理審査受審中

# ポータルサイトがオープン



6月以降、ポータルサイトから申請受付開始  
速報値、研究発表アーカイブ、参加施設向けマニュアルなど掲載





# 結語

- 本邦初の継続的、全国的な自傷・自殺未遂調査システム
- 最終的な目的は、自殺者を減らす、医療者の負担を減らす
- 2022年夏には全国一斉に登録を開始

• **約60/289 施設**から参加申請



ポータルサイト QR

ぜひ全ての3次救急医療機関  
のご参加をお願いします